

Larion LEBEDEV (ラリオン・レベジェフ) 氏スピーチ (日本語訳)

通訳：ラリオン・レベジェフ氏は、「福島第一原発」事故処理問題露日専門家会議の調整役として日本のために大変苦勞され、旭日章を授与された方です。

レベジェフ：ここにいらっしゃる皆さんはだいたい政治か経済の関係者の方々だと思いますが、私は原子力学者であります。私はチェルノブイリ事故の初期から携わっておりまして。その後、東京大学の原子力研究センターで 2 年間研究してきました。原子力における日露の協力に関して、少し意見を述べたいと思います。特に、政治経済と技術はいかに関わりを持つのか、さらに間違った政策はどういう危険な結果をもたらすのかについて、議論していきます。

日本で働き始めた当初は、日本人の仲間とは単なる同僚の関係でしたが、その後、本当の友情を感じるようになり、すでに 25 年くらいに渡りその関係を維持してきました。福島第一の事故が起こった時、私はこの時こそ協力すべき時だと思い、私のロシア人の仲間、グループを集めて、すぐに日本へ出発しようと思いました。私には日本の学会や産業界で非常に重要な役割を果たしている仲間がいるので、すぐに日本に招聘（しょうへい）されると思っていました。ロシアはチェルノブイリ事故を経験し克服したという意味で、他の国々にはない経験を持っている国です。皆さんはご存じだと思うのですが、チェルノブイリ事故は、いわゆる国際原子力事象評価尺度におきまして、最も危険性の高い 7 のレベルです。福島第一も同じ 7 のレベルです。しかし残念ながら日本には、私の同僚も含むロシアの専門家を招く意思は最初からまったくありませんでした。私は水素爆発が必ず起こると最初から予想していました。私の日本人の友人、仲間はそのことを懸命に警告しようと思っていました。

福島第一の事故がいかにして起きたのか、簡潔に説明します。まず、最初に起きた地震のせいで、送電線がほぼ切られました。制御棒が上がり、原子力としては停止しました。しかし、原子炉を止めても、数日間それを冷却すべきです。多大な熱が出ているからです。電気が切れると非常用ディーゼルが稼働しましたが、地震が起きてから 51 分後、恐ろしい津波が来ると、その非常用ディーゼルも駄目になりました。停電のせいで、炉心溶融が始まりました。当初、私の仲間は、大量の水素が必ず出ると予想していました。もし、私たちが最初から携わっていれば、水素爆発を避けることができたのではないかと思います。

しかし、日露の政治的な理由で、信頼関係の不足によりそういう恐ろしい結果をもたらしました。一方で、私たちも知っていますが、フランスとアメリカの専門家が招かれました。しかしながら、ロシアがチェルノブイリから得た経験は、本当にユニークなもので、ほかの国の専門家は持っていません。ほぼ 4 カ月もの後、日本の原子力関係当局が、

その当時の菅首相を通じて、ロシアに依頼してきました。ロシアではすぐに大統領の命令に応じて、特別な委員会が設立され、日本への協力が始まりました。このような日本への素晴らしい協力はすでに 4 年間続いており、その間日本側の依頼にもとづき、本当に大量な資料がロシア側から日本へ渡されました。

私たちの協力のひとつは、隣接地域も含む福島第一の敷地に関わることです。それは水質汚染問題です。汚染水がどんどんたまっているのですが、それを海に流してはいけません。もうひとつの本当に困難な問題は、融解した燃料集合体をどうやって引き出すかということです。これらの問題に関して、ロシア側は非常にユニークな素晴らしい経験を持っており、日本人の同僚に懸命に協力しています。さらに、福島第一と隣接する土地には、2,500 万トンもの土が置かれています。現在、放射能のレベルを考慮し、その土をどう分別するのかについて、私たちは協力しています。また、ロシアはその土を浄化する技術を持っていますので、この問題の解決策を現在検討しています。

私が言いたいのは、前述したような政治的な妨げがない限り、非常にうまく、効果的な協力ができるということです。政治的な理由で協力が阻まれ、水素爆発のような恐ろしい事象が起きるのはとても残念なことです。ですから、プロハーノフ氏が主張してきましたように、なんらかの形で日露の相互関係を改善、変更すべきだと思います。どうもありがとうございました。